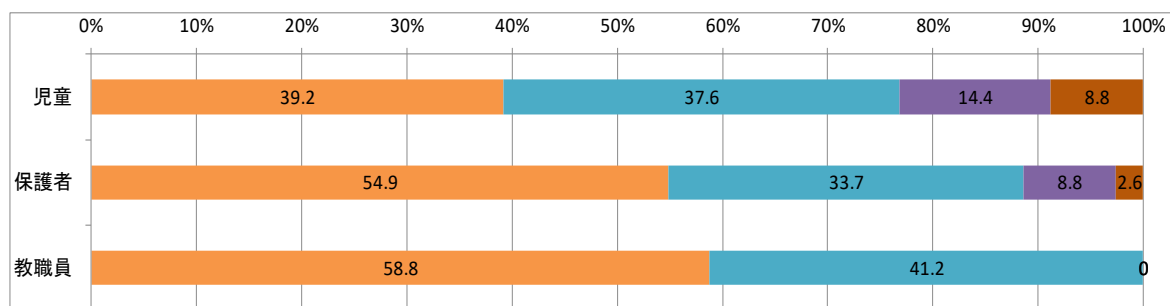


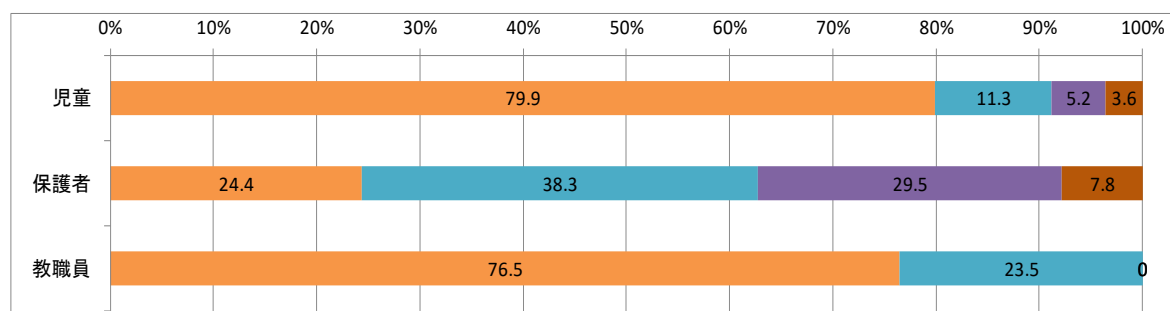
令和7年度 四国中央市立中之庄小学校学校評価結果



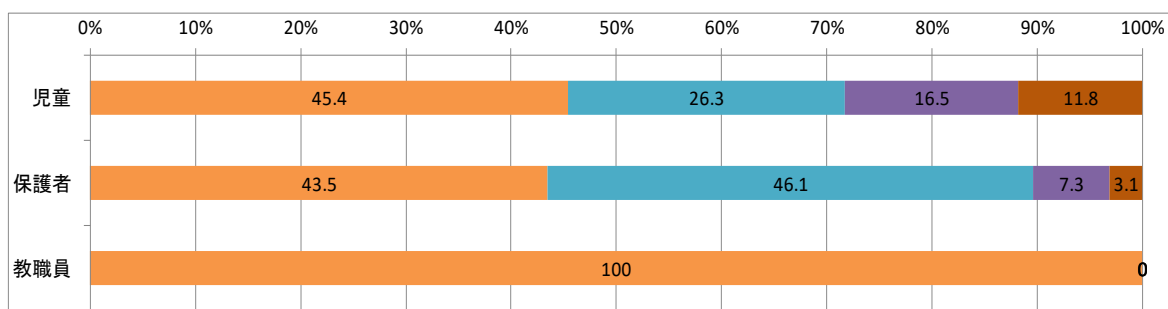
1 毎日、同じ時刻に起き、同じ時刻に寝ている。(教職員：指導をしている)



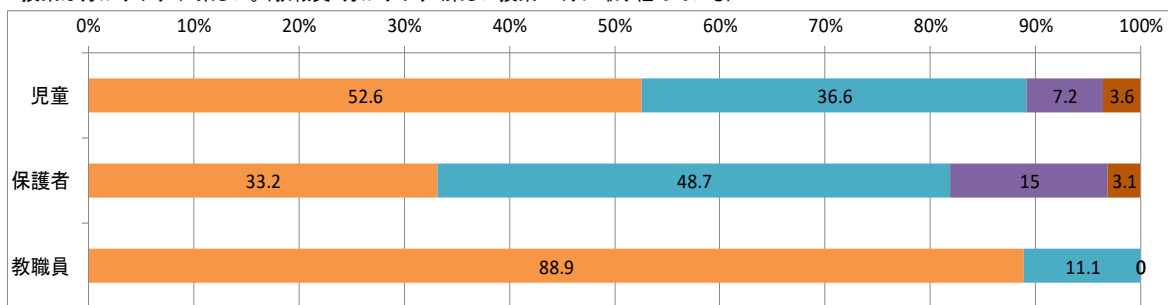
2 毎朝いろんな食品をバランスよく食べている。(教職員：指導をしている)



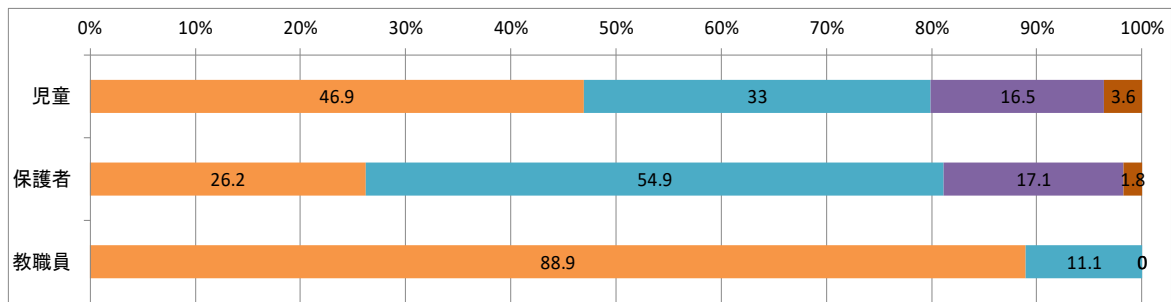
3 困ったことがあったら、友達や先生に相談している。(教職員：指導をしている・相談できる体制づくりに取り組んでいる)



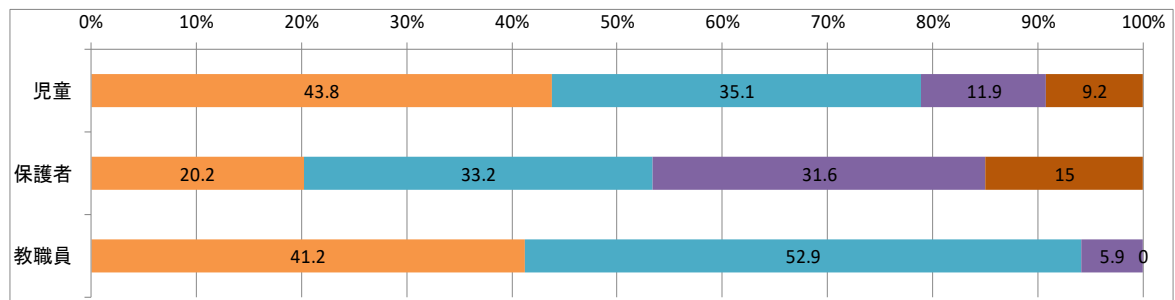
4 授業は分かりやすく 楽しい。(教職員：分かりやすく楽しい授業づくりに取り組んでいる)



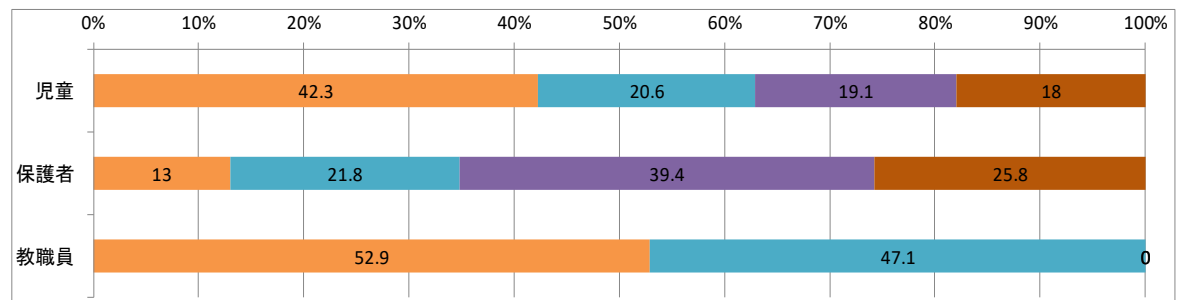
5 自分の思いや考えを人にきちんと伝えている。(教職員：伝えるよう指導をしている)



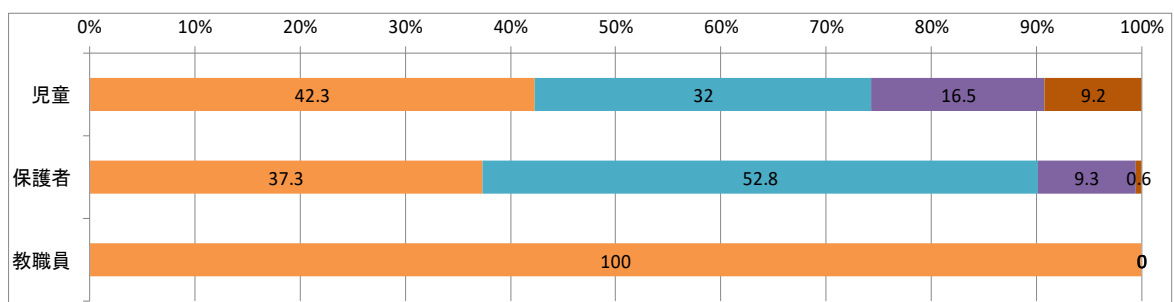
6 家で自分で計画を立てて毎日学習している。(学年×10分)(教職員：指導をしている)



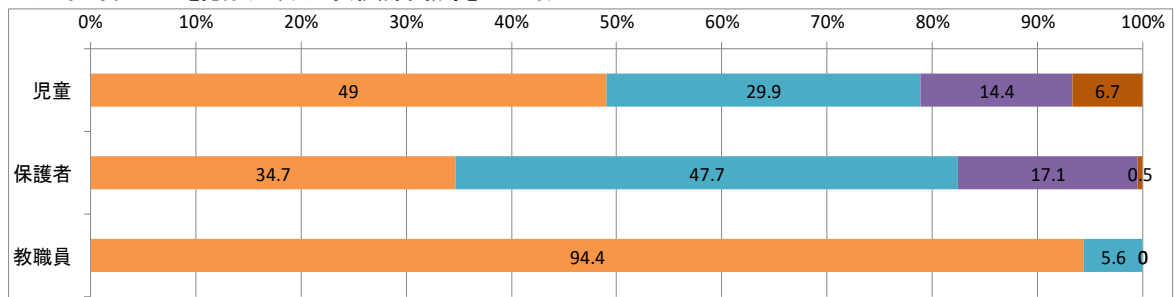
7 家で読書をしている。(教職員：指導をしている)



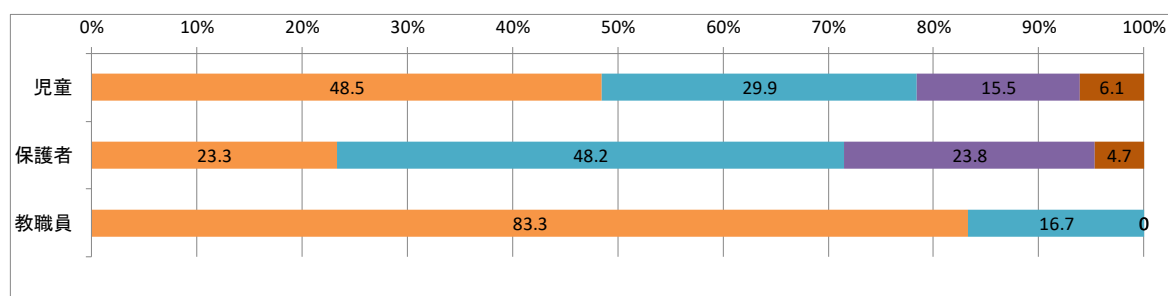
8 自分には良いところがあると思う。(教職員：良いところをが互に見つけることができるよう指導をしている)



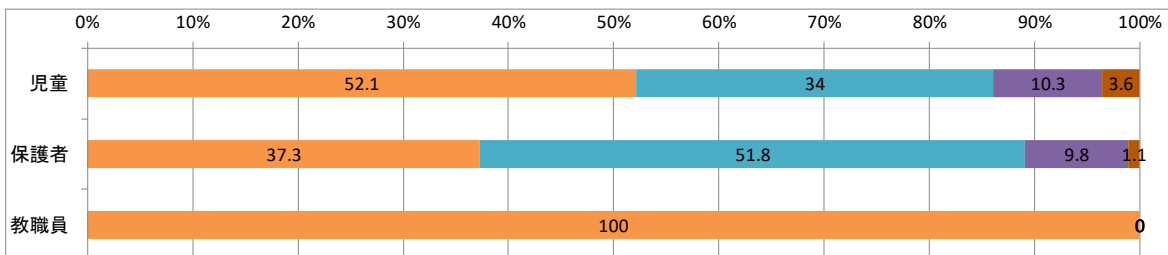
9 みんなの良いところを見付けて伝えた。(教職員：指導をしている)



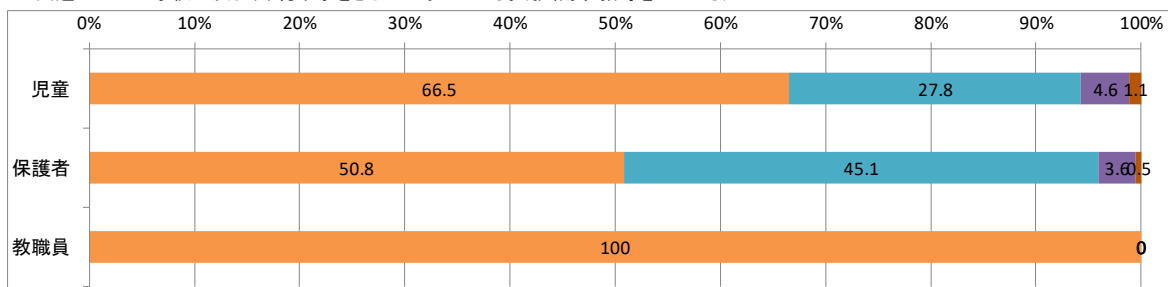
10 地域の人に会ったら、大きな声で挨拶をしている。(教職員：指導をしている)



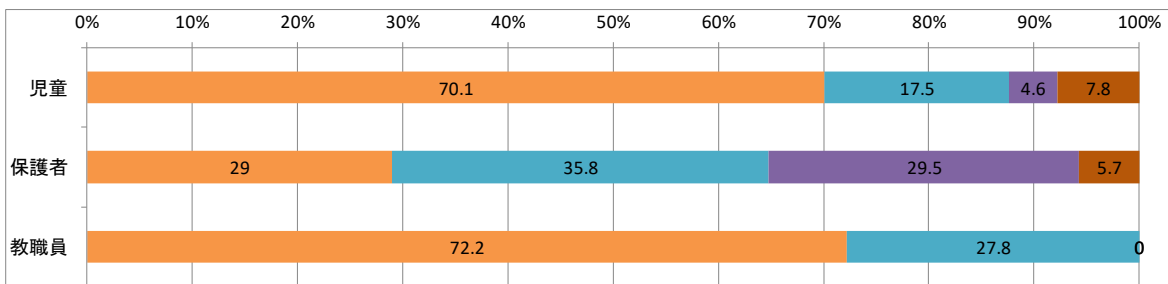
11 人が困っているときは進んで助けている。(教職員：指導をしている)



12 交通ルールや学校の決まり、約束事をきちんと守っている。(教職員：指導をしている)



13 将来の夢や目標を持っている。(教職員：持つことができる指導や支援をしている)



【児童・保護者・教職員のアンケート結果から】

1 学力について

- 「授業は分かりやすく、楽しい」の設問については、1学期に続き9割近くの児童が肯定的な回答をしている。子どもたちが日々の学習に対して意欲的に取り組んでいる様子が伺える。これまで取り組んできたICT機器の活用や、体験的な活動を取り入れた授業改善が、子どもたちの「わかる楽しさ」につながっているものと考えられる。この意欲を維持できるよう、今後も「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に努めていく。また、授業中に解決できなかった疑問や、つまづきを感じている部分に対し、休み

時間や放課後を活用した個別対応をさらに充実させる。

- 「家で自分で計画を立てて毎日学習している」の設問については、不十分と捉えている児童や保護者が少なくない。学校からは、学年段階や児童の実態に応じて内容や量を調整し宿題を出しているが、めあてを持って取り組めるような家庭学習の在り方を今後とも検討していく。保護者には、配付している「家庭学習の手引き」を参考に、取組への協力を呼び掛けていく。

2 学校生活について

- 「自分の思いや考えを人にきちんと伝えている」の設問については、肯定的な回答をした児童や保護者の割合が増加した。家庭でも児童の自己表現力の高まりを実感する機会が増えているのではと感じている。このような成果が得られた要因として、授業の中でペア学習やグループ学習を積極的に取り入れ、自分の考えを言語化する機会を増やしてきたことが考えられる。また、校外学習や総合的な学習の時間において、地域の方々と交流する経験を重ねたことも自信につながったのではと感じている。今後も子どもたちが自信を持って自分の考えを発信できるような取組を進めていきたい。
- 「人の良いところを見付けて伝えた」の設問については、児童・教職員の肯定的な回答の割合が増加した。本校では、「かがやきコーナー」や「かがやき表彰」を通して、一人一人の努力や長所を可視化することに加え、全校単位の取組として、異学年の友達の良さをキラキラカードカードに書き、給食時間の校内放送で紹介する活動も行っている。また、教職員が、児童の小さな頑張りや良さを多角的に見付け、具体的に褒め、認めるという肯定的な関わりを意識してきたことも、児童の「友達の良いところを見付けよう」とする意欲に良い影響を与えたのではないかと考える。
- 「毎日、同じ時刻に起き、同じ時刻に寝ている」という設問については、肯定的な回答をした児童の割合が、前回に比べ大きく減少している。気温が低下し、朝の起床がスムーズにいかなくなっていることに加え、スマートフォン等のメディア機器の使用頻度の増加による生活リズムの乱れが原因として推察される。規則正しい生活リズムは、学習への集中力や運動能力の向上に直結する重要な要素である。そこで、1月のフリー参観日に合わせ、高学年の保護者の皆様を対象に、睡眠の重要性を共に考える場を設けた。睡眠健康指導士を講師に迎え、専門的な知見から、睡眠が「元気・勉強・運動」にどのような効果をもたらすか、メディア機器が睡眠に与える影響などについて話していただいた。

【保護者からの意見と学校としての対応】

- 持ち物についてのご意見があった。
 - 子どもたちが学習に集中しやすい環境をつくるという観点の下、児童の実態を考慮し、持ち物や服装等のルールを決めている。しかし、配慮が必要な場合には、保護者と相談して対応を検討している。ルールの変更がある場合には、学年便りやテトル等を通して、随時知らせていく。
- 参観行事の実施回数についてご意見があった。
 - 学校としては、過去の踏襲という形ではなく、児童や保護者、地域にとって有益なものであるかを検討し、保護者の意見を参考にしながら、実施の有無、内容の変更等を判断していきたいと考えている。

【学校運営協議会の評価】

	項 目	評価 (4点中)
1	学校の教育目標の達成に向けて具体的な目標を設定し、校長を中心に組織的に学校運営や教育活動を行っているか。	3.91
2	自己評価結果を分析して具体的な改善方策を実施し、課題が改善されているか。	3.42
3	教育活動や評価結果に対して、分かりやすく情報提供できているか。	3.75
4	保護者、地域住民は、学校運営に積極的に参加・協力しているか。	3.33
5	学校運営協議会は、適切に運営されているか。	3.67
6	教職員は、児童の生活習慣の確立や分かる・できる授業づくりに努めているか。	3.5
7	教職員は、児童の健全育成、いじめのない学級・学校づくりに取り組んでいるか。	3.67
8	学校は、安全で安心な学校づくりを進めているか。	3.75

【学校運営協議会委員からの意見】

- 1年間を通して、定期的にかつタイムリーに分かりやすく情報提供していただき、学校がどのような考えでどのような活動をしているのか、手に取るように分かった。これこそが信頼につながる一番の近道だと思う。
- ICTを活用した実践事例を、学校運営協議会や地域の人が集まる場で紹介してほしい。
- 算数等の授業支援ボランティアを2学期から行っており、自分も4年生の算数、1年生の算数に少しであるが入らせていただいた。来年度も引き続き算数の授業支援が必要であると思われる。特に九九を覚えていない児童がおり、個別支援の必要性を痛感した。
- 学習習慣の定着は、中学生の様子を見てもある程度できていると思う。学力の定着については永遠の課題である。地域の人材を活用して、継続してほしい。

【次年度に向けての改善方策】

- 年度の早い段階から、地域ボランティアに入ってほしい学年や教科、行事を提示することで、地域人材の力をより効果的に学力向上に生かすとともに、教職員の校務の負担軽減につなげる。
- 標準学力調査の分析結果等を活用し、児童の実態に応じた小テストを作成して復習を行ったり、放課後学習を中心にした個別指導の時間を充実させたりと、丁寧な見取りを通して基礎的・基本的な学力の定着を図る。
- 早寝・早起きを始め、メディア機器の使用時間など、基本的な生活習慣の定着に向けての指導を継続するとともに、取組を保健だよりやホームページで紹介し、家庭への協力を呼び掛けていく。学校保健委員会で取り上げることも検討する。